



育成センターだより

鹿児島市山下町6-1 TEL 227-1972

【6月の重点指導事項及び着眼点】

- 1 安心して登校できる環境づくり
学校・家庭・地域・関係機関等の連携による啓発活動の推進と不安を抱える少年への適切で積極的な声かけ・相談活動
- 2 喫煙・薬物乱用防止
未成年者の喫煙・薬物使用防止に関する啓発活動の推進

ゲーム依存症「やめたくてもやめられない」を防ぐ



メールチェックやSNSのやりとり、動画視聴、ニュース検索、ゲームなど、スマートフォンやタブレットといったモバイル端末を利用したとても便利な生活を私たちは送っています。令和3年度、県教委が保護者を対象に実施した

「インターネット利用等に関する調査」では、小学校、中学校、高等学校の児童生徒の9割以上が、インターネットに接続できる機器を所持又は使用しているという結果が出ています。

また、いずれの学校種においても、「インターネットを長時間利用していると感じている」割合が最も多く、学校種が上がるにつれて増加しているという結果も出ています。ここで心配になるのが「ゲーム依存」です。

「ゲーム障害（ゲーム依存）」は、2019年5月に世界保健機関（WHO）の国際的に統一した病気の基準である「国際疾病分類（ICD）」の中に、「ゲームの長時間プレイで日常生活に明確な問題が生じ、自らの意思でやめるのが難しい状態」と定められま

した。

医学的に認められている依存症は、アルコール、薬物、ギャンブル、ゲームの4種類で、長年の研究によって、原因と症状に類似性をもつことが認められた病気です。ゲーム依存症は、本人や周囲の人も「ゲームにはまっている」と気軽に考えているうちに進行してしまうのが怖いところです。

特に、インターネット上で行われるオンラインゲームは、絶えずアップデートされ、ゲームに終わりがありません。また、一緒にプレイする仲間や敵がいることで、ますます依存性を高めていくことになり、生活リズムや学業、健康、人間関係、社会生活などへの悪影響が起こり始めます。

「やめたくてもやめられない」状況に陥らないためには、スマホ等の使用時間を見直すことが大切です。食事のときはスマホを見ない、寝る2時間前はスマホを見ないなど、家族でスマホ等の使い方についてしっかり話し合い、家族全員で同じルールを守ることで、依存症から子どもを守れるようにしていきたいものです。



山本五十六から学ぶ ～今に通じる育成法～

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ。」

どこかで聞いたことがある山本五十六の名言です。教育分野においても、重要視されています。さて、この名言、続きがあります。

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」

「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

育成。人を育てるとはかくも大変なんだと感じます。大事なことは、「子どもたち（青少年）を人として尊敬し、信頼し見守る」ではないかと考えます。

育成センターでは、愛ある声かけに心掛け、少しでも青少年の健全育成に寄与できればと日々活動を行っています。

青少年を信頼し、見守る輪が広く地域に広がっていくことを願っています。まずは、目の前にいる青少年から愛ある声かけを始めてみませんか。

「認めているよ」が 伝わる言葉かけを…

下の表は、令和4年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果の一部です。

質問事項	全国と県との差	
	小6	中3
・自分にはよいところがあると思いますか。	-7.0	-6.9
・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	-7.5	-7.8
・困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	-4.1	-4.2

この結果を見てどう思われるでしょうか。鹿児島県の子どもの自己肯定感の低さが気になりますが、その原因は大人たちの子どもに対する接し方にあるのかもしれません。

「すばらしいね」、「頑張ったね」のように、子どものありのままを受け入れ、認めてあげるような温かい言葉を掛けてあげると、子どもはきっと自分に自信をもって成長するとともに、他者のよさも認められる人に育っていくのだと思います。

